

# 原口遺跡 2次調査

宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2023

中津市教育委員会

## 序

私たちのまち、中津市には古代の人々が残した遺跡が数多く残っております。今回調査報告書を刊行いたします、原口遺跡もこうした遺跡の一つです。

開発によって貴重な文化財が損なわれないよう、遺跡内での工事の際は文化財保護法に基づく手続きが必要です。工事によって遺跡が永久に損なわれる場合は発掘調査を行い、遺跡を記録保存する必要があります。今回刊行します報告書は記録保存された原口遺跡の姿です。

最後になりましたが、今回の調査にあたってご協力頂いた方々に御礼申し上げますとともに、これからも中津市の埋蔵文化財行政にご理解ご協力いただきますようお願い申し上げます。

令和5年3月1日

中津市教育委員会

教育長 栗田 英代

## 例 言

一、本書は有限会社ツジハラ設計工房代表取締役辻原久志と中津市長奥塚正典との発掘調査および報告書作成委託契約により中津市教育委員会が令和4年度に実施した原口遺跡の発掘調査報告書である。

一、調査費は全額、有限会社ツジハラ設計工房代表取締役辻原久志が負担した。

一、調査体制は次のとおりである。

調査責任者	栗田英代	中津市教育委員会教育長
調査事務	黒永俊弘	中津市教育委員会教育次長
	瀬戸口千佳	中津市教育委員会社会教育課長
	速水 誠	中津市教育委員会社会教育課管理・文化振興係主任
調査員	高崎章子	中津市教育委員会社会教育課歴史博物館館長
	花崎 徹	中津市教育委員会社会教育課歴史博物館副館長
	丸山利枝	中津市教育委員会社会教育課歴史博物館博物館・文化財係主査
	小柳和宏	中津市教育委員会社会教育課歴史博物館博物館・文化財係専門員

一、遺構確認調査を小柳が、本発掘調査は丸山が担当した。

一、現場作業は下記の皆さんの協力による。

祐成本文、武吉香子、福成誠一、宮津しのぶ

一、遺構写真は丸山・小柳が撮影した。

## 目 次

第1章 調査にいたる経過	1
第2節 周辺の環境	2
第1節 地形と考古学的環境	
第2節 周辺の調査歴	
第3章 調査成果	4
第4章 まとめ	7

## 挿 図 目 次

第1図 調査区位置図 (1:5000)	第4図 原口遺跡2次遺構分布図 (1:100)
第2図 原口集落小字土地利用図	第5図 遺構全体図 (1:80)
第3図 周辺の遺跡 (1:20000)	第6図 遺構堆積状況図 (1:40)

## 表 目 次

表1 遺跡地名表
----------

## 写 真 図 版 目 次

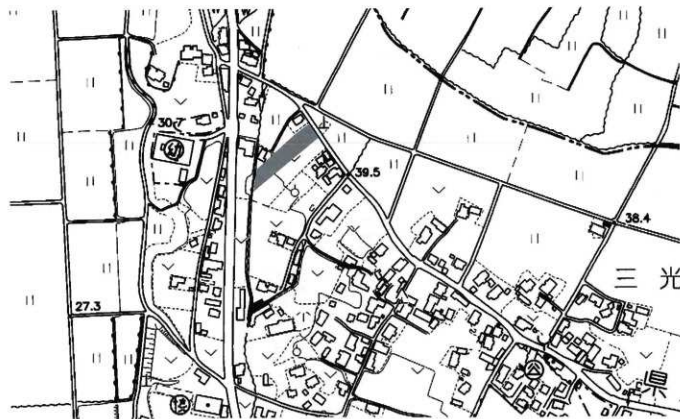
写真1 原口遺跡出土遺物1	写真4 方形周溝 (写真上が西)
写真2 原口遺跡出土遺物2	写真5 S-3堆積状況 (南東から)
写真3 原口遺跡調査区全景 (北東から)	写真6 S-4堆積状況 (北東から)

## 第1章 調査にいたる経過

令和4年10月7日、有限会社ツジハラ設計工房代表取締役 辻原久志から中津市三光原口において宅地造成を行う内容の埋蔵文化財発掘の届出が提出された。同年10月14日付けで大分県教育委員会教育長から遺跡の取扱いについて発掘調査の通知を受け、10月21日、位置指定道路建設予定地を対象に遺構確認調査を行った。調査の結果、建設予定地西側に遺構の分布が確認されたため、工事主体者と遺構保存についての協議を行い、発掘調査による記録保存措置を採ることとなった。10月25日、工事主体者と中津市長奥塚正典が発掘調査および報告書作成委託の契約を交わし10月27日から本発掘調査に着手、11月4日に調査を終了した。調査面積は、101㎡である。

### 《調査日誌》

- 10月27日 工事主体者立会のもと、表土除去を行う。壁面整形、遺構検出作業を行う。
- 10月28日 検出状況空中写真撮影。遺構発掘開始。
- 10月31日 遺構断面写真、図面作成。測量。
- 11月2日 遺構平面図作成。
- 11月4日 遺構完備状況空中写真撮影。調査終了。



第1図 調査区位置図 (1:5000)

## 第2章 周辺の環境

### 第1節 地形と考古学的環境 (第3回)

原口遺跡は中津市三光原口に所在する弥生～古墳時代を主とする遺跡で、山国川を見下ろす下毛原台地の西端に位置している。下毛原台地の端、斜面は弥生時代後期からの遺構が多く確認されており、墓域としての土地利用が特筆される。

東九州自動車道建設に伴って発掘調査が行われた葦山遺跡 (158) では、弥生時代中期～古墳時代の遺構、土壌層、石棺墓が基礎確認されている。国道10号線バイパス建設に伴って試験調査された勘助野地遺跡 (64) では2号方墳で4世紀中ごろの特殊器台が出土し、本発掘調査された勘助野地1号方墳は3基の主体部が確認された。周溝内から壺型埴輪が出土し、墳丘上に樹立されたものと考えられている。出土遺物から5世紀前半に位置づけられる。次いで相原山首遺跡 (118) 1号墳、帯旗塚古墳 (63) 2号墳が5世紀中ごろ、1号墳が後半に造営された。またこの頃、上ノ原横穴墓群の造営が始まり、7世紀まで続く。相原古墳群 (62) は横穴式石室を持つ円墳で出土遺物から6世紀後半～末に位置づけられるが現在は消滅している。7世紀に入ると、相原山首遺跡で低墳丘、横穴式石室の方墳が築造され始める。概ねでは、4号墳→8号墳→2号墳→5号墳→6号墳→7号墳の築造順序が考察されている。調査時に墳丘が残存していた上ノ原稲荷塚古墳 (129) は7世紀後半の方墳である。また、主体部は確認されていないが上ノ原平原遺跡 (122) の方形周溝からは7世紀後半の須置器が出土し、方墳である可能性が考えられる。8世紀中ごろになると、勘助野地遺跡や坂手隈城跡 (60) で蔵骨器の埋納が行われるようになる。中津市で最も早い火葬例である。以後9世紀初頭まで確認されている。他に相原山首遺跡で古代の火葬窯が調査されている。

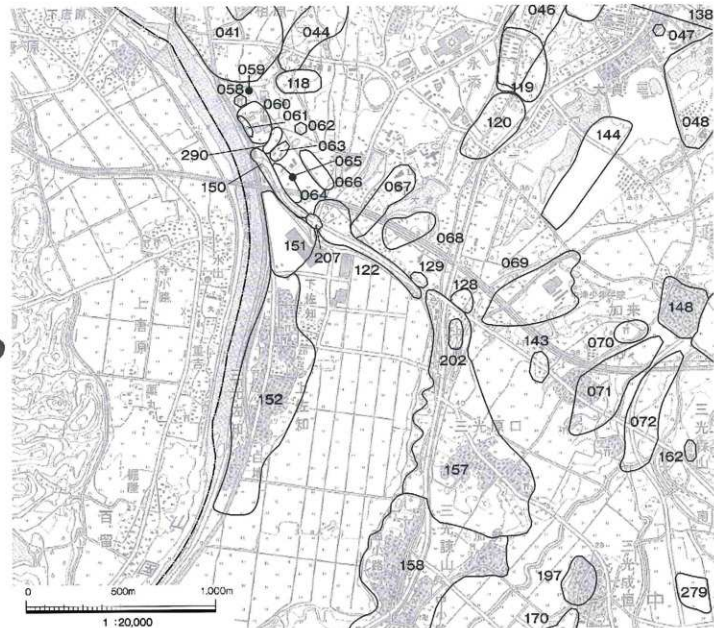
### 第2節 周辺の調査歴

中津市教育委員会が平成25年度から行っている中近世城館調査によって原口集落内に中世の土塁・堀が残っていることが分かった。集落内には「大木庵」「原口屋敷」といった小字が残り、方形の区画が確認出来る。今回調査区は字「出口」にある。(第2図) その規模から在地領上層の館とそれに付随するムラと考えられている。

また2015年に行われた調査地に隣接する県道浜見成恒中津線の発掘調査では、字境に沿って南北に伸びる2条の溝を確認している。原口屋敷の東を区画する溝と想定されている。



第2図 原口集落小字土地利用図 (参考文献⑧より転載)



第3図 周辺の遺跡 (1:20000)

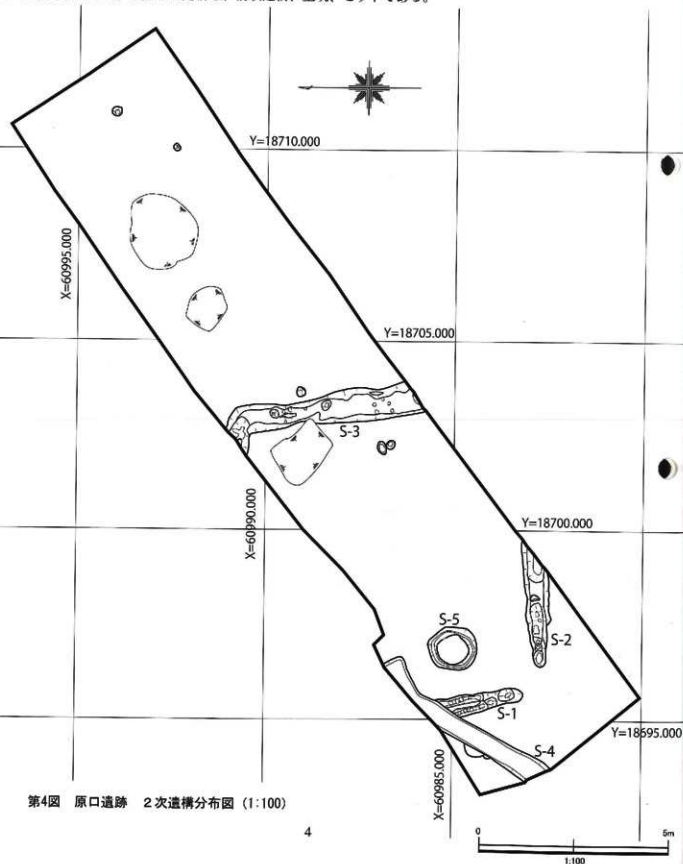
表1 遺跡地名表

原館番号	遺跡名	立地	種類	時代	原館番号	遺跡名	立地	種類	時代
41	三石遺跡	自然発露	墓群	弥生・古墳・古代	119	中央寺遺跡	古墳	古墳	奈良・平安・中世
44	中津跡	丘陵	古墳	弥生・古墳・古代	120	湯島遺跡	古墳	古墳	奈良
45	八重城跡	丘陵	城跡	中世	122	上ノ原平原遺跡	古墳	古墳	弥生・古墳
47	久ノ瀬遺跡	神保平野	古墳	古墳	138	勘助野地遺跡	古墳	古墳	奈良
48	勘助野地遺跡	古墳	古墳	古墳	179	上ノ原平原遺跡	古墳	古墳	奈良
58	新中津城跡	丘陵	城跡	古墳	138	古代型石室遺跡	特殊地誌	遺跡	古墳・中世
59	鴨子山古墳	丘陵	古墳	古墳	143	鎌倉遺跡	古墳	古墳	奈良
60	坂手隈城跡	台地	城跡	古代・中世	144	中津遺跡	古墳	古墳	奈良・古墳
61	坂手隈横穴墓群	丘陵	横穴墓群	古墳	148	加茂原遺跡	特殊地誌	特殊地誌	奈良
62	相原山首遺跡	丘陵	古墳	古墳	150	上ノ原横穴墓群	横穴墓群	遺跡	遺跡
63	帯旗塚古墳	丘陵	古墳	古墳	151	相原山首遺跡	古墳	古墳	奈良
64	勘助野地遺跡	丘陵	古墳	古墳	152	知念遺跡	古墳	古墳	奈良
65	上ノ原遺跡	丘陵	古墳	古墳	157	葦山遺跡	古墳	古墳	奈良
66	葦山遺跡	丘陵	古墳	古墳	158	相原山首遺跡	古墳	古墳	奈良・古墳
67	久ノ瀬遺跡	丘陵	古墳	古墳	162	後藤塚古墳群	古墳	古墳	奈良
68	北津南遺跡	丘陵	古墳	古墳	170	志賀遺跡	古墳	古墳	奈良・古墳
69	清水原遺跡	丘陵	古墳	古墳	197	日光崎遺跡	古墳	古墳	奈良
70	大津遺跡	丘陵	古墳	古墳	202	新中津城跡	古墳	古墳	奈良
71	大津遺跡	丘陵	古墳	古墳	207	上ノ原遺跡	古墳	古墳	奈良
72	相原山首遺跡	丘陵	古墳	古墳	279	久ノ瀬遺跡	古墳	古墳	奈良・古墳
118	相原山首遺跡	丘陵	古墳	古墳	290	葦山遺跡	古墳	古墳	奈良

### 第3章 調査成果

#### 第1節 調査概要

調査区の基本層序は、I層：灰褐色細砂（表土） II層：黒褐色極細砂（遺物包含層） III層：黄褐色シルト（地山）である。遺構の埋土はII層由来のものやII層にIII層ブロックが混ざるものに大別できる。表土を重機で除去しII層中での遺構検出を試みたが、遺構埋土の判別が難しかったためIII層上面まで重機で掘り下げ、遺構を検出した。確認した遺構は、溝状遺構、土坑、ピットである。

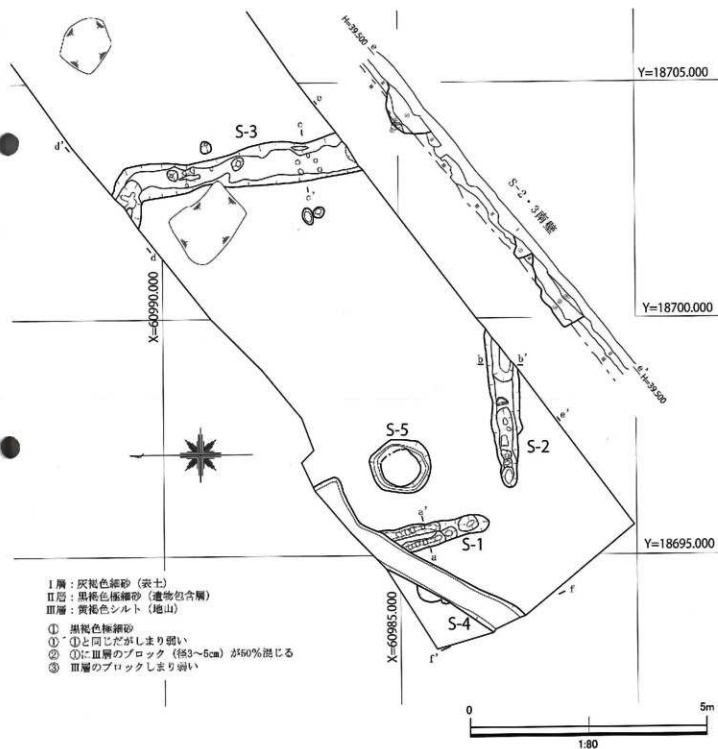


第4図 原口遺跡 2次遺構分布図 (1:100)

#### 第2節 遺構

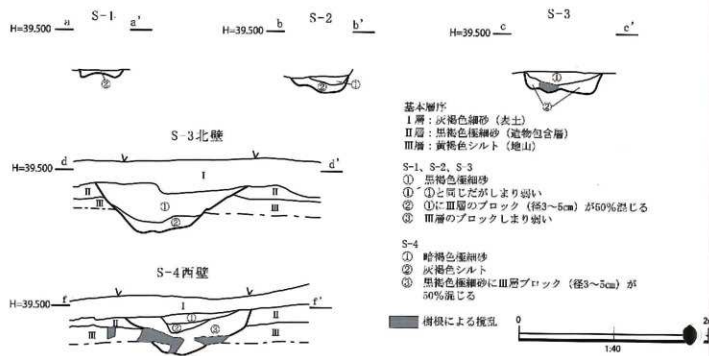
##### 方形周溝 (S-1、S-2、S-3 第5図)

溝状遺構 S-1、S-2、S-3 は位置関係、埋土から同一の遺構と考えられ、1辺 8 m 程度の方形周溝に復元される。S-1、S-2 は溝底面の凹凸が著しく、凹凸の形状も酷似している。S-3 は南北方向の溝状遺構で北壁付近で西に屈曲する。3 条とも埋土は最下層に II 層由来の堆積に地山ブロックが混ざり、上層は II 層由来の黒褐色極細砂である。掘り込みの上端は I 層に剛平されているため、盛土が存在したかどうかは不明である。また、遺物は土師質の土器小片が数点出土したのみであり時期は不明である。



- I層：灰褐色細砂（表土）  
 II層：黒褐色極細砂（遺物包含層）  
 III層：黄褐色シルト（地山）
- ① 黒褐色極細砂  
 ② ①と同じががまり強い  
 ③ ②にIII層のブロック（83～5cm）が50%混じる  
 ④ III層のブロックががまり強い

第5図 遺構全体図 (1:80)



第6図 遺構堆積状況図 (1:40)

#### S-4 (第5、6図)

S-1を切る溝状遺構で、掘り込みの上端はI層に削平されている。南西から北東へのびるが、北壁付近で途切れる。断面はU字を呈する。遺物は土師質の土器小片のみで時期は不明である。

#### S-5 (第5図)

遺構として検出したが断ち割り後、樹根による擾乱であると判断した。

### 第3節 遺物

包含層・遺構から出土した遺物は少量で、遺物整理箱1箱に満たない。いずれも小片で摩滅も著しく因化に堪えないため、出土遺物によって遺構の時期を判断するのは難しい。

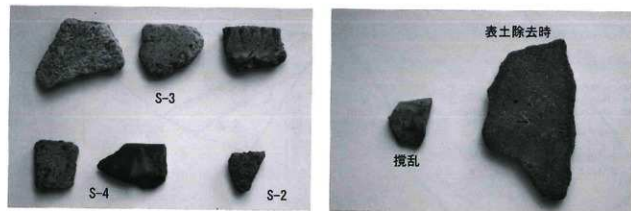


写真1 原口遺跡出土遺物1

写真2 原口遺跡出土遺物2

## 第4章 まとめ

調査では方形周溝と推測される遺構を確認したが、遺物からは時期を判断できなかった。主体となる遺構埋土は黒褐色のII層由来のもので、台地上の調査歴から弥生～古代の遺物包含層であると考えられる。また、台地縁辺部の延長上にある上ノ原平原遺跡と上ノ原稲荷塚古墳で方形周溝が調査されている。これらを勘案すると、今回確認した遺構も墓である可能性がある。下毛原台地西端における墳墓の分布状況から、原口遺跡内西側にさらに展開することも予想される。今後、周辺での開発等に注意を要するエリアである。

### 《参考文献》

- ① 大分県教育委員会 1988 『一畑園道 10号線中津バイパス埋蔵文化財発掘調査報告書(1) 湯野地遺跡 六歳町遺跡 大池南遺跡 清水御原遺跡 黒水遺跡 大塚遺跡 権現島遺跡』
- ② 大分県教育委員会 2000 『上ノ原平原遺跡 主要地方道門津中津線(相原工区) 道路改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 大分県文化財調査報告書第113号』
- ③ 大分県教育庁埋蔵文化財センター 2002 『橋次郎原遺跡 上ノ原稲荷塚古墳 県道門津中津線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 大分県文化財調査報告書第143号』
- ④ 大分県教育庁埋蔵文化財センター 2016 『深山遺跡 東九州道(県境～宇佐間) 建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 大分県教育庁埋蔵文化財センター調査報告書第86号』
- ⑤ 大分県教育庁埋蔵文化財センター 2017 『原口遺跡 県道洗見成恒中津線改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 大分県教育庁埋蔵文化財センター調査報告書第94号』
- ⑥ 中津市教育委員会 2022 『中津市の中近世城郭 各説・総括編 中津市中近世城郭確認調査報告書2 中津市文化財調査報告書第107集』



写真3 遺跡全景(北東から)



写真4 方形周溝(写真上が西)



写真5 S-3堆積状況(南東から)



写真6 S-4堆積状況(北東から)

## 報告書抄録

書名	原口遺跡2次調査							
副書名	宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	中津市文化財調査報告							
シリーズ番号	第114集							
編著者名	丸山 利枝							
編集機関	中津市教育委員会（中津市歴史博物館）							
所在地	〒871-0057 大分県中津市1290番地 Tel：0979-23-8615							
発行年月日	2023年3月1日							
所収遺跡名	所在地	市町村コード	遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
原口遺跡	大分県中津市三光原口 761-1、762-1	44203	203157	33° 32' 59"	131° 12' 05"	令和4年10 月27日～11 月4日	101㎡	位置指定 道路建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
原口遺跡	包蔵地ほか	弥生・ 古墳	溝状遺構	土師質の土器		方形周溝墓か		
要約	溝状遺構3条は方形周溝の可能性があるが、遺構からの遺物が少なく小片であるため時期等は不明である。							

### 原口遺跡2次調査

宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書  
中津市文化財調査報告 第114集

2023年3月1日

発行 中津市教育委員会  
印刷 高橋印刷所